

淀川シジミの復活。漁獲量が3年で5倍以上へ EMで豊かな生態系が蘇る。



大阪は多数の都市河川が流れる水の都。しかし、高度成長期に大阪湾岸の多くが埋め立てられ水質汚染は進む一方でした。かつては豊かな川・海を漁場としていた漁師たちは甚大な影響を受け、その浄化方法を模索してきました。

数ある浄化方法の中で、「EM技術」に可能性を見出した漁師達がありました。「姿を消してしまっていた生物が戻ってくる、生息している生物が豊かになる、自然の浄化力が高まっていくのが実感できる。」と平成15年より本格的に始動した大阪市漁業協同組合の「大阪湾再生」環境浄化活動です。

道頓堀川、寝屋川、神崎川をはじめとする都市河川、琵琶湖を水源とする淀川、そのすべての流れが行き着く大阪湾の再生を目指して、ダイナミックなEMによる浄化活動は淀川シジミの復活の成果を得て、新しいステージへと変わり始めています。

今迄のEM活動として、道頓堀川への元気液（EM活性液）と元気玉（EM泥団子）を投入した結果、ヘドロが減少、汚臭軽減を市民の方々が実感しました。また淀川のシジミ漁場ではシジミの生息域が拡大するとともに漁獲量も増加。

EM投入の翌年にはヘドロが砂地に変化し、漁獲量も40トンへと増加しました。そして17年には102トンと確実に復活し、18年・19年もその傾向は続いています。

「魚庭（なにわ）の鼈甲しじみ」のブランド化に向けて、その名のとおり、魚の豊かな大阪湾を未来へ残すために漁師たちの真剣勝負は続いています。

■産経新聞平成18年9月19日夕刊掲載写真使用

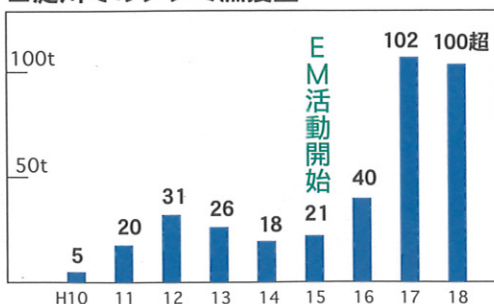


漁獲量が増えている淀川産のシジミ。鼈甲色の貝殻が特徴という＝大阪市此花区の大阪市漁協



味が良いと評判のべっ甲シジミ。また他産地に比べて鮮度がいいのも強みです。各種のマスコミに取り上げられています。

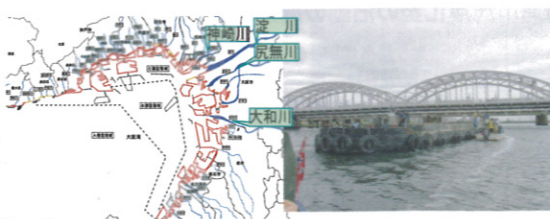
■淀川でのシジミ漁獲量



■大阪湾へ流入する河川へのEM投入

大阪湾へと流入する河川は淀川を始め、都市化の進んだ市街地を流域とする河川が多くあります。

海の汚染は陸地からと言われるように、大阪湾再生のためには、幅広い流域でのEM活動が必要です。



■小中学校のプールへのEM投入

EMを使用してプールを清掃すると汚れが付きにくくなり、掃除がとて楽になります。洗剤もほとんど必要ないため、子供達も安全で、プールから流れた水は川や海を積極的に浄化する力になります。

